

# 全国学力・学習状況調査

## 「点数競争」あおる施策の廃止を

文部科学省は18日、全国の小学校6年生と中学3年生全員を対象に、国語と算数・数学の2教科で全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)を実施しました。2007年に第1次安倍内閣のもとで始められた学力テストは、回を重ねる毎に点数競争を激化させています。

### 授業前って過去問

全国学力テストを導入したときの文科省の口実は「子どもの学力状況を調べる」ということでした。しかし、過去の問題をやらせるなど「点数対策」が横行しているもとでテストをして、本来の子どもの「学力状況」はわかりません。

こうした現状は文科省も問題視せざるをえなくなり、昨年の全国学力テストのさい、当時の馳浩文科相は「点数さえよければいいのか」とし、2、3月から学力テストの過去の問題集をやらせている学校があるのは「とてもないこと」などと述べました。

### 競争をあおったのは文科省

抽出調査で済む学力テストを全員対象にし、都道府県の平均点を公表するなどして競争をあおったのは文科省自身です。14年度からは、これまで禁止だった学校別平均点の公表を解禁し学校の序列化を加速しました。今年度からは各政令指定市の平均点も公表するにしています。点数アップが最重要課題であるかのようにした責任は文科省にあります。

### 具体的な指導がでない

文科省のテスト導入のもう一つの理由に「教育指導の改善」を上げてい

### 毎年50、60億円

全国学力テストには、毎年50億〜60億円が使われています。その予算を35人学級の完全実施などに回し、学習が遅れがちな子どもへの丁寧な支援ができるなど、一人ひとりに目が届くよう教育条件整備にお金をかけ、教師の創意工夫の自由を保障するところと必要です。



### 豊かな学び保障できず

学力テストのため、教師が自主的に創意工夫した授業をする自由を奪われているのは重大問題です。文科省は2020年度から改訂される次期学習指導要領の中で「主体的・対話的で深い学び」を記しましたが、教師が「点数対策」の授業を強いられているのは、豊かな学びを保障することができません。

### 家庭訪問スタート

新学期が始まり2週間余りが過ぎました。明るい笑い声が聞こえる教室をつくりたいですね。

4月も下旬です。この時期、各校で保健行事とともに家庭訪問が始まる時期でもあります。

しかし考えてみると、子どもたちのことをよく知っているのは保護者です。

ここは、担任になって時間があまり経っていません。今日はお子さんのことを聞かせて下さい」と切り出してみてもどうでしょう。

そんな教師の話や聞き姿勢に、保護者の人は共感を寄せるものです。

家庭訪問は、その多くが保護者との初めての出会いです。緊張しますね。「しつかりしないと!」と思ひ、ついつい教師からの話が多くなります。

保護者の話に耳を傾けるとともに「こんないいお子さんですね」と学校生活での具体的なエピソードも、一つは伝えたいものです。

この一年、子どもたちの成長を共に喜び合えるよう、家庭訪問では、保護者の方とよい出会いをしたいと思います。



**第30回 高石こどもまつり**

日時：5月21日(日) 午前10時～12時すぎ  
 場所：加茂小学校の運動場・体育館

体育館では  
 お面づくり・紙皿UFO・缶つまみ・バルーン・育児相談コーナー・マーブリング・折り紙など

運動場では  
 段ボールめいろ・スライム・スーパーボールすくい・竹とんぼ・ストラックアウトなど

泉北教組はスライムのコーナーを担当します。ぜひご協力ください。